

令和5年度 第62回米子市美術展覧会（市展）

部門別審査講評 及び 市展賞作品講評

【洋画】

審査講評：

全体的に小品にレベルの高い作品が集まった感がある。特別賞を上げたい絵が何点かあった。「森の賢者」（毛利輝）はデザイン部門であれば賞がとれるかも知れない。独創的な作品も何点もある。大作には画面をまとめる力量だけでなく、何を表したいのか、の表現力が要求される。これから期待します。

（評者：倉鋪 悠）

市展賞：高石 恵美 《成実クッキングサークル》

老人会の活動のようだが、どの顔にも笑みが浮かんでいる。長い年月の労苦の後にたどり着いたやすらぎと喜びが表現された一作。今生きていることの喜びと、皆と一緒に料理出来る楽しさが画面からあふれ出ている。

（評者：倉鋪 悠）

市展賞：西岡和子・木村広美・亀田寛人・玉井詞 《希望のたね》

遠くから見ると少し雑な作品のように見えるが、近づいて見ると複雑に絡み合ったナイロンや毛糸、絵具の集合体であることが判る。これからの人生を照らす希望の光をあらわしているのだろうか。

（評者：倉鋪 悠）

【日本画】

審査講評：

作品は1枚ごとにタイプの違う良さがあり、本来比べられるものではないのですが、狙いと視点の面は差がある作品が印象に残りました。絵を描くとき作品はモチーフを再現するのではなく創造してほしいものです。そして人に感動を与える心が大切です。中でも市展賞の館野さんはとても描きこまれた作品です。奨励賞の合沢さん、田食さんは岩絵具の美しさに好感を持ちました。

（評者：西尾 克己）

市展賞：館野 楓奈《難転》

何気ない風景の一隅を卓越な構成力で切り取り、魅力的な作品に仕上がった手腕に注目しました。細部まで緻密に練り上げられた画面に思わず目が吸い寄せられました。バックの色彩もストイックに抑制しつつ、南天の赤い実の彩りがひきたてられています。

(評者：西尾 克己)

【書道】

審査講評：

今年度も多数の作品が出品され、しかも書式や書体、用紙、表装等が多彩であった。調和体は、仮名の勉強をしてほしい。

形式にこだわらない意表をつく作風がどんどん出品されるように思いました。

(評者：船原 濤軒)

市展賞：木村 碧秀《王昌齡之詩》

文字の引きしめと行間の程具合がよく、整然とした作風になった。行書で大部分を書き連綿を極力さけた格調の高い佳作である。

(評者：船原 濤軒)

市展賞：西山 遥月《白雪の》

平素の古筆臨書を土台とされていて、その雰囲気香る。

濃淡疎密を活かし、白と黒の調和が美しい。

(評者：中澤 秀月)

市展賞：石田 園子《ちとせふる》

多くの和歌を美しい紙にのせて古筆の雰囲気もあり、行の流れ、行間も美しく、全体を見事にまとめた作品である。

(評者：吉岡 芝香)

【写真】

審査講評：

一般応募数は昨年に比し数点多くなったのは喜ばしい。

作品の表現意図がはっきりしない、構図や色彩など基本的なことが今一步という作品が多々見受けられました。

次回に期待したい。

(評者：安養寺亨、岩崎瑞枝、岩下直行、長谷川公夫、福島多暉夫)

市展賞：加川 清三郎《夏めく》

赤色が印象的な、写真3枚組を大きく扱い、見る人を引き付ける写真力がある。

(評者：安養寺亨、岩崎瑞枝、岩下直行、長谷川公夫、福島多暉夫)

市展賞：中本 珠子《風の旋律》

心象的な作品である。

風をテーマにモノクロでスクエアサイズでコンパクトに仕上げた作品といえる。右端の写真、人物形はもう少し目力を表現した方が更に良かったと思う。

(評者：安養寺亨、岩崎瑞枝、岩下直行、長谷川公夫、福島多暉夫)

【工芸】

審査講評：

近年木を素材とした出品が多く見られるが、評価の高いものは木の特長を生かしたものが多かった様に思う。

今回立体の手芸作品の出品があり、意見が分かれたものの、その意欲が買われ受賞に到った。

例年工芸は技法が様々なので審査に苦慮するが、もう少し地元の産業でもある緋の出品が望まれる。

(評者：大谷 治)

市展賞：小谷 忠之《風神雷神壺》

工芸部門は素材が布、木、陶土 etc、審査の折に悩む!!

手の込み具合で見た眼が違う。この風神雷神壺は、焼き上げまでの工程上の手を加えている事が素晴らしい。

(評者：安藤 釉三)

市展賞：カオストリップ《戦う平和主義》

可愛いドレス2対、ステキです。

細かい所々のギャザーの取り方、布の色合わせなどよく考えてあり、大変でしたでしょう。これからも頑張って、来年度も是非出品されることを楽しみにしています。

(評者：仁宮 洋子)

【彫刻】

審査講評：

彫刻部門の一般は一点のみの出品ということで、年々減少傾向にあり寂しい限りですが、出品された作品「ねこ」は木彫に彩色が施された力作である。丁寧に彫刻刀を使いこなし、細部までしっかりと彩色された完成作品を見ると、ねこに対する深い愛情が鑑賞者へも伝わってくる。来年は是非多くの方に出品していただきたいと願うばかりである。

(評者：永江 靖幸)

市展賞：該当なし

【デザイン】

審査講評：

デザインとは時代の流れを調整する中間領域にある。全体を見るとアナログの作品がほとんどである事に、基本は考え方の本質をとらえる事であるので安心した。選ばれし3点は意図を持ち、訴えかける力の差と表現技術の力があり選定された。

時代の風潮、表現の方向と技術・構成力・色調などみがいて欲しい。

(評者：勝部 忠正)

市展賞：鈴木《弱い人》

デザインの色彩の配分が良く出来ている。青い地色の上に赤い頭部を仕上げたから一部ハギ取って、赤い顔面の内から黄色な血液のような流れが強いイメージを与えている。

(評者：加藤 哲英)